



寒さが緩み雪が解けると、地面に張り付くように葉を広げた野草が現れました。中には小さな花やつぼみをつけているものもあります。2月下旬、まだまだ寒くなったり緩んだりの毎日でしたが、春への備えは確実に進んでいるのですね。

# 飯舘 百景

「光の春」に



並木の枝、銀白色の毛に覆われた冬芽(伊丹沢)。



雪が消え芝も久しぶりの日光浴(ふかや風の子広場)。



雪景色でも、空はほのかに春色。(前田・八和木)

「光の春」という言葉を聞きます。もともとは外国から伝わった言葉だそうです。徐々に日が長くなり、陽の光が少しずつ強さを増し、春の気配が感じられるようになる頃を指すのだそうです。

立春を迎え、「光の春」を迎えても、日によっては冷え込んでため池が真っ白に凍ったり、朝起きたらうつつすら雪が積もっていたり。寒の戻りを繰り返しながら、季節は春に向かっていきます。

そんな中でも春の兆しを確かに感じる光景に出会いました。「まだ2月なのに」と思いますが、雪の下でも、大地は準備を進めていたようです。

大久保・外内地区の農地では、陽当たりの良い場所に、小さな花を見つけました。この日は寒さが緩んでひなたの雪はほとんどが解けていました。空にはトビ(トンビ)が舞っていて、「ピーヨロロ」と鳴いています。植物も動物も、春本番を待ち切れず、「光の春」を喜んでいるようでした。それは人間も同じですね。

間もなく山ではマンサクが咲くでしょう。桜は「大倉の桜」から咲き始め、「長泥の桜」まで、時間をかけて飯舘独自の桜前線を描いていくでしょう。野の花、庭の花が咲き乱れる美しい飯舘の春、花の季節が、すぐそこまで来ています。